

平成29年度 常置委員会だより N0.2

母親・広報委員会編

北海道PTA連合会

平成29年12月15日（金）

平成29年12月9日（土）に第2回母親・広報委員会が開催され、地区母親研修会の実施状況の交流やグループに分かれての研究内容の交流、平成29年度のまとめと次年度の方向性についての研究協議そして道P連ホームページ内「母親のつぶやき」の投稿研修などを行いました。

平成29年度 母親・広報委員会 研究のまとめと次年度の方向性

1. 今年度の研究テーマ

- ◎ 全道統一スローガン 『今 こころ輝いて 親として 人として』
- ◎ 今年度の研究テーマ 『豊かな心をもった子どもを育てる母親のあり方』

2. 成果と課題

(1) 母親委員会の活性化と組織の充実のあり方

- ① 各地区母親委員会を組織化し、活性化させるための地区母親研修会はどうあればよいか。

〈成果〉

- ◎ 毎年の活動として根付いている地域では、母親が積極的に運営に携わっている。
- ◎ 実行委員会を組織し、企画・運営の全てを取り仕切った。
- ◎ 町内全ての学校から運営委員を選出してもらい、参加の呼びかけ等組織として活動することを意識して取り組んだ。
- ◎ 市内を4つのブロックにわけ、各ブロックより2名ずつ役員を選出し、8名による組織体制づくり。委員長の選出は各ブロックの輪番制。
- ◎ 予算削減のため、実行委員会は減らしたが、事前の電話やメールでの連絡により、当日はスムーズに進めることができた。
- ◎ グループLINE活用で疑問点がすぐ解決し、次の委員会までの段取りがスムーズになった。
- ◎ 母親委員らしい家庭に役立つものを、堅苦しいものではなく、アットホームな感じで企画・運営した。また、担当者の負担にならないようにコンパクトなものに工夫・改善した。

〈課題〉

- ◎ 母親委員会・母親研修会の認知度が低く、研究大会後の母親研修会（分科会）への欠席も多かった。学校の中での母親委員会の必要性和周知に取り組んだが、各学校での共通認識が低いと感じる。まずは、学校単位での周知が必要である。

◎各地区P連合同開催（同日）が半数以上あり、全て任せてしまっている地区、午前午後で分けている地区、分科会のいくつかを母親研修会にしている地区等がある。各市町村での活動が停滞している地区も多い。母親委員を配置していない学校もあり、組織が確立されていないのが課題である。市町村P連や単Pの中に、母親委員を位置づけてもらうことから始める必要がある。

◎母親委員会単独の動きではなく、地区P連の会議の中で情報交換や取組のお願いをしている。

② 指導力を高め、行動する母親委員会の日常的な活動はどうあればよいか。

《成果》

◎HP等を拝見すると、様々な取組の情報を得ることができる。参考にしながら、地域のPTA活動に活かしていきたい。HPの閲覧や呼びかけが必要である。

◎道P連での交流・情報交換で得た知識を持ち帰り、地域の実情に沿った方法を模索していきたい。

《課題》

◎地域が広範囲のため、地区の母親委員さんと会うこと、話をする、意見交流をすることは非常に難しい。しかし、そういう時間が貴重であると感じている母親が多数いることがわかったため、今後工夫しながら交流の時間を持てるようにしたい。

◎それぞれの悩みを語り合う場があると言うことは意味があるが、それ以外の活動に広がらないことが課題である。

◎道P連での交流・情報交換で得た知識を持ち帰り、地域の実情に沿った方法を模索していきたい。

◎役員ではない保護者の方にもっと、興味を持って活動してもらえるような手立てが今後必要。

◎道Pの活動で学んだことを地区の皆さんにしっかり伝え、共通認識に立って物事を進めていかなければならないと感じているが、なかなか難しい。

◎1年で引き継ぎとなるが、1年では何もできないというのが正直な感想である。

◎人が集まりやすい環境を作ることが課題である。

◎地区Pの中に母親委員会の活動を広げていくことができれば。

③ それぞれの実態に応じたスムーズな引き継ぎの在り方はどうあればよいか。

《成果》

◎輪番のため、全担当事務局が中心に行っている。

◎2年の輪番制のため、年度内に報告書を作成し引き継ぎたい。

◎地区P連事務局が中心となって各担当事務局等と連携しながら引き継ぎを実施。

◎年度内に事務局で資料を整理して引き継いだり、年度初めの総会での引き継ぎを実施。

◎市内4ブロックにわけ、各ブロックから2名の役員を選出しているため、引き継ぎもスムーズに行われた。

◎内容は、当日の会場図・動き等基本となるマニュアルの引き継ぎを行いたい。

（その他引き継ぎたい内容）委員会の議事録、時系列による引き継ぎ文書の作成、研修会当日の映像（ビデオ・DVD）・写真撮影 等

《課題》

◎各地区に任せていたり、組織がないため引き継ぎもない。

(2) 「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

① 家庭の教育力を高めるためにはどうあればよいか。

《成果》

- ◎講演・分科会等の研修・交流の取組により、課題を共有したり、家庭教育の重要性を再認識するよい機会となっている。
- ◎教育局社会教育指導班と連携し、母親研修会の折に、「情報提供資料」を配付、説明してもらっている。道P連が発行する資料を家庭に配付するよう依頼している地区もある。
- ◎親学・食育講座・講演等を開催し、家庭環境におけるネット利用等を把握し、保護者の心得を学ぶことができた。(携帯・スマホ等のメディア関係は各家庭での喫緊の課題である)
- ◎講演で「子どものためにできること」「子育てに必要なこと！家族のコミュニケーション」「子どもと親の結びつき」「子どもの精神発達の過程」「子どもの安心・安全」等をお話いただき、家庭の教育力を高める視点を学ぶことができた。
- ◎「生活リズムチェックシート」を活用。

《課題》

◎より多くの研修会参加者を募り、地域としての教育録の高まりを図っていくことが必要である。

② 家庭における食生活や食の安全はどうあればよいか。

《成果》

- ◎朝食の重要性を、改めて子どもに教えた。
- ◎町の重点的取組として、「早寝・早起き・朝ご飯」ということで、食習慣の呼びかけを行っている。
- ◎給食試食会等でPTAと学校で連携して食育に取り組んでいる。参観日における給食試食会の実施も。
- ◎食育について各機関より発行される資料を配付して啓発している。
- ◎分科会の一つをクッキングにし、食材の新しい使い方等を教えていただいている。
- ◎町P連主催の親子料理教室を開催。母親委員が発案し、料理教室を開催した地区もある。
- ◎分科会で「食育」についての提言があったり、「子どもたちの食生活」をテーマに、必要な栄養素や食の現状と課題を討議した。
- ◎地区P連事務局と連携し、情報交流や取組のお願いをしている。

《課題》

◎母親委員会全体としても取組ができないか検討が必要。(給食便りの交流、他市町村の給食試食会等)

③ 家庭と学校、家庭と地域社会の連携はどうあればよいか。

《成果》

- ◎あいさつ運動への参加等、地域・学校の方とのコミュニケーションに努めた。
- ◎コミュニティスクールを導入する町が増えているため、そこを足がかりに、地域と学校の連携が期待される。
- ◎「生活習慣改善プロジェクト」にPTAからもスタッフとして参加し、生活時間調査の集計分析を行い改善に活かしている単P・町Pがある。
- ◎講演等の内容に、家庭・学校・地域の重要性を組み込む。
- ◎管内PTA研究大会や母親研修会において、学校・家庭・地域の連携について考える分科会を実施した。
(地区P連との連携)
- ◎参観日や学校行事、親子レク、地域行事等、様々な場で連携できるよう積極的な参加を呼びかけ、交流する機会を増やすよう取り組んでいる。
- ◎各市町村の学校と地域が、子どもが安心して安全に暮らせるように、家庭・地域で協議・運営する場を設けている。(交通安全・危険箇所点検・非行防止・ネットトラブル等)
- ◎市教委と連携して子育てに関する10か条を作成しており、今後も各家庭に周知徹底を図りたい。

《課題》

- ◎特になし。

(3) 母親・広報委員会発の話題提供源としての広報活動

①道P連のホームページを活用した継続的な情報発信の推進

《成果》

- ◎母親のつぶやきに積極的に投稿した。
- ◎地区事務局より各連合会に対してホームページ閲覧の呼びかけをしている。
- ◎地区の母親委員会に口コミで閲覧のお願いをしている。
- ◎ホームページに母研開催の報告をする為「PTAT」を活用した。
- ◎母親委員自ら定期的な閲覧を心がけている。
- ◎会議の中などでホームページの話題を上げる。

《課題》

- ◎まだまだ活用されていないのが現状。今後も投稿や閲覧について周知していく。
- ◎投稿、閲覧に関しては積極的な活動をしていく 呼びかけに工夫も必要。
- ◎単位PTAの役員会などでも話題にし広く伝える事も大事。

②ブロック、各地区、単位PTAの活動状況内容の収集と話題提供

《成果》

- ◎単位PTAの取組等が紹介されていて閲覧し参考にしている。
- ◎ホームページなどで様々な情報を得ている 地域のPTA活動に生かしたい。
- ◎母研に向けて案内チラシを作成し母親委員会の活動紹介と参加の呼びかけをした。

- ◎もっと多くの方に興味をもってもらいたい。
- ◎参加者を増やしたい。

《課題》

- ◎広報活動の組織基盤がないため主体的な取組には至らない。

③情報の共有化

《成果》

- ◎他の地域の情報を集めて参考にして活用した。

《課題》

- ◎広報活動の難しさを改めて感じた 多くの人に活動を知ってもらう事が大事。
- ◎広報活動の意義の発信 情報把握に努めたが積極的に投稿は出来ず情報の共有はできなかった。

3. 次年度の方向性

①母親委員会の活性化と組織の充実のあり方

- 地区母親研修会における母親委員の活動を積極的に進めるために、今後も実態を把握し、情報交流を行っていくとともに、活動の目的・趣旨等の共通理解に努める。
- 全道各25地区の母親委員に北海道全体にPTA活動が浸透していくよう、道P連の会議への積極的な参加を呼びかけるとともに、ホームページの充実を図り、閲覧・投稿等の呼びかけを行い、組織や活動の活性化を図る。
- 今後も母親研修会の目的や趣旨・位置づけを明確にし、体験参加型の内容の工夫や母親の視点からの内容の工夫のほか、市P連との連携を図り、主体的に企画・推進・運営を行っていくことが大切である。

②「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

- 家庭環境も様々であり、子育てに悩む親は多い。悩みを母親あるいは父親一人で抱えるのではなく、多くの人と情報共有できる場を設定し、意見交流を図っていく。
- 各地区で、望ましい家庭教育の在り方を追求することができるよう、各地区の研修会等の取り組みを交流したり、参考資料として継続して整備していく。

③母親委員会発の話題提供源としての広報活動

◎道P連のホームページを活用した継続的な情報発信の推進

- ホームページを活用してもらうには新しい情報が必要になる。
- 25地区の母親委員が中心となり継続的な情報発信の推進に努める。
- ホームページの周知、閲覧の積極的な呼びかけをし活用促進を図る。
- 母親のつぶやきで身近な情報発信と情報共有を図る。

◎ブロック、各地区、単位 PTA の活動状況内容の収集と話題提供

○ブロック、各地区、単位 PTA は母親委員の活動を通じて繋がり確立が重要。

◎情報の共有化

○各地区の情報の把握に努め「活動の紹介」「PTAT」「役員・母親のつぶやき」等への積極的な投稿を行い情報の共有化を図る。

○PTA 活動や子育てに多くの会員に活用していただけるツールとして、会員自ら参加・運営するホームページとして取組を進める。

※成果と課題というように明確に分けられない内容もありましたが、どちらかに入れさせていただきましたので、ご了承ください。

北海道 P T A 連合会事務局



〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 2 丁目 共栄火災ビル 7 階

TEL (011) 251-6937 FAX (011) 210-0929

Eメールアドレス info@hokkaido-pta.jp